

高等学校野球部監督の技術指導と人間形成の考え方に関する質的研究
Qualitative research of policy about technical direction
and character building that baseball managers in high school think

1K06B011

指導教員 主査 堀野博幸先生

安藤侑亮

副査 吉永武史先生

．序論

現在、中高生がその年代にスポーツ経験をすることは地域のクラブチーム活動や学校体育の授業内の他に、学校内の部活動がある。その指導をするのは学校に勤務している教師である。本研究では、指導者としての教師の中でも高校野球部監督に限定をし、成績別で上位群と下位群に分け、インタビューを実施し、部活動での人間形成の考え方や実践方法、競技面とのバランスのとり方の調査する。インタビュー内容の分析からレベル別での指導者の理念等の共通点・相違点を見つけ出し、現在監督を行っているまたはこれから監督を行う教師が自らのチームの方針を立てる際に役立てることを目的としている。

．方法

高等学校の野球部で監督として指導に当たっている教師4名を本研究の対象に半構造化インタビューを行い、そのデータを基にグラウンデッド・セオリー・アプローチの手法を用いて質的研究を行った。上位レベル群からは262の意味単位、下位レベル群からは265の意味単位が得られ、本研究の分析対象となった。

．結果

その結果、上位レベル群からは「集中力」、「高校生としての自覚」、「忍耐強さ」、「向上心」、「技術向上の追求」、「気づく力」、「雰囲気作り」の7つのサブカテゴリーが、下位レベル群からは

「集中力」、「高校生としての自覚」、「ライフスキルの獲得」、「技術向上の支援」、「気づく力」、「雰囲気作り」の6つのサブカテゴリーが導き出された。さらに上位レベル群、下位レベル群の両方から「こころの下地、土台としての人間形成」と「集団の団結力、チームとしての強さ」の2つの大カテゴリーが概念化された。

．考察

上位レベル群と下位レベル群について最も大きな差異が認められたのは、上位レベル群の「技術向上の追求」と下位レベル群の「技術向上の支援」というカテゴリーである。上位レベル群の監督は技術向上の追求を部活動の中で考えているが、下位レベル群の監督は技術向上を「追求」というよりも選手個人が技術を向上させていくことを「支援」としているということが今回の分析結果から示された。上位レベル群の監督は選手たちにより高いレベルのパフォーマンスを発揮してもらうために、より良い技術を求める心や意識を求めている。このように上位レベル群の監督は「技術向上の追求」を求めることで、そのために必要な「向上心」、「忍耐強さ」も同時に求めていることが明らかとなった。反対に下位レベル群の監督からは技術向上を追求するような発話はされなかった。これらの差異が生じた理由として下位レベル群では選手に技術向上を高水準で要求出来ないこと、監督自身が技術向上の追求を求めていることが考えられる。さらに上記の理由から指導方針

の中でも特に技術向上に関する事柄はその監督が所属している高校や指導する環境によって「追求」ができるか「支援」に留まってしまうかが左右されることも示唆された。

今回分析・抽出された人間形成に関するカテゴリーは「こころの下地」と「集団の団結力」という2つであった。しかし今回明らかとなったこの2つのカテゴリーのみが人間性の向上に関与し、人間形成が行われ、その結果として社会で通用する人間になれるかということについては本研究からは明らかとならなかった。こころの下地と集団の団結力が社会に出て通用する人間になることにどのくらいまで影響を及ぼしているのか、また、別の概念が考えられるのかは今後明らかにしていく必要があるだろう。